

開催日時：平成17年8月31日（水） 10:00～13:00

場 所：ドーンセンター 5階 特別会議室

出席委員：池淵委員長、井野瀬委員、高橋委員、中川委員、久委員、堀野委員、増田委員、山下委員

1. 議 題

- (1) 前回議事概要確認
- (2) 二級河川芦田川水系河川整備基本方針について
- (3) 一級河川淀川水系神崎川ブロック関連の報告について
- (4) 一級河川大和川水系石川ブロック河川整備計画について

2. 概 要

- ・ 二級河川芦田川水系河川整備基本方針について

(まとめ)

二級河川芦田川水系河川整備基本方針について説明した。治水計画については概ね妥当と考えられるが、基本高水に至るプロセスを分かりやすく整理するとともに、「ふるさとの川整備計画」については、市街地の環境向上に寄与することを文章化すべきとの指摘があった。意見、指摘内容に対して加筆修正等を行い、各委員に個別に説明しその上で、委員会に報告することとなった。

(委 員) 24時間雨量が神崎川ブロックと比べて大きい理由はなにか？

(事務局) 24時間雨量(任意の24時間)と日雨量(9時～9時)では、降雨の実現象をとらえている24時間雨量が大きくなる。治水計画上は、24時間雨量で計画を立てる方が妥当であるが、神崎川ブロックは明治から観測されている日雨量を採用し、長期間のデータを使い確率評価している。

(委 員) 川によって計画雨量の考え方が変わるのか？

(事務局) 一般的に府が管理する中小河川は合理式で計画することが多いが、芦田川など貯留施設が計画される場合は、降雨パターンが必要であり、24時間雨量を基本として計画を立てる。また、神崎川流域については、国が管理し計画している猪名川水系が日雨量で計画されていることもあり、流域全体の整合を図るため日雨量を採用している。

(委 員) 調節池や二層河川などの事業は、芦田川流域に必要なのか？

(事務局) 芦田川流域の現行計画は、密集市街地であり河川の拡幅は不可能であるため、公園の地下を利用した貯留施設や、二層河川を併せた治水手法を選択し事業に着手している。

(委 員) 整備のイメージパスと現況があまりにもかけ離れているが、地域に求められている整備なのか？

(委 員) イメージパスについては、ふるさとの川整備事業計画時のバブル期の過度な整備を求める風潮があった時代背景で作成されたものである。ただ、当時も高石市の上面整備としての限界性があることから、過度な整備についての議論はあった。

ただ、上面整備は河川管理者が担保できるものではないことと、既にこの広場の下に地下調節池がある状況は、認識する必要がある。

(委員) 地下調節池の上に植樹することになるが、維持管理は可能なのか？メンテナンスにコストをかけずに、もっと利用しやすいスペースを作れるのではないか。

(事務局) このイメージパースは、コンセプトを絵にただけであり、整備実施の段階で精査したい。

(委員) イメージパースのような整備を本当に実現できるか、また、維持管理できるかは、高石市と十分詰めてもらう必要がある。

(委員) 高石市はほぼ全域が密集市街地で、オープンスペースが少ないため、大きな空閑地をとるだけで市街地環境にとって非常に価値のあることであり、その位置づけを強調した方がよい。また、下流部の現在ある桜並木をどう残すかについても、整備の中で表に出した方がよい。

(事務局) 桜並木については、保全する形で整備を行う予定である。

(委員) 既定計画がありその残事業に対しての河川整備計画のあり方だが、芦田川の場合、地下調節池は既に完成しており、二層河川を前提に整備をすすめている。ここでは、計画の位置付けが社会情勢の変化によっても変わらないこと、あるいは何か見直すものがあるかということの確認ぐらいに限定されると認識している。

(委員) 昭和27年の計画対象降雨が1時間雨量77.6mmで1/180の確率降雨となっている。ただ、こういう流域の小さい川だと1時間の降雨量が流出量に大きく影響することから、昨年の実績降雨の時間雨量77mmを考慮すべきであると考えます。

(委員) 府民に対する安全性を考えるのであれば、去年の実績を考慮に入れた考え方は正しいと思う。ただ、明確に考え方を示した方がわかりやすい。例えば、24時間雨量、1/100確率で整備すると説明するならば、1時間雨量の確率で議論しなくても説明としておかしくないのではないか。あるいは、24時間雨量で1/100、1時間雨量でも1/100を包括することとすればどうか。また、引き伸ばし率2倍での棄却についても徹底してはどうか。

(委員) 昭和27年の実績降雨の引き伸ばし率が2倍を超えていることもあるが、モデル降雨が妥当な計画降雨だと思える。

(委員) 6つの計画対象降雨を選んだ過程を明確にすれば、分かりやすくなるのではないか。

(委員) 全体の総意として治水計画は妥当だと思うが、どういう考え方、流れで総合判断をしたのか、わかりやすく明確にしてほしい。また、上面整備の必要性や桜並木の保全についても明記すべきであり、資料を整理して再度報告すること。

・一級河川淀川水系神崎川ブロック関連の報告について

(まとめ)

一級河川淀川水系神崎川ブロック関連で、8月19日(金)に行われた安威川ダムの利水規模縮小の知事表明の内容について報告した。次回の委員会で、利水規模縮小について審議することとなった。

(委員) 大阪府の負担が最小ということだが、日本全体の負担となるとどうかというのが気になる。利水規模縮小に伴い、環境に対する影響が小さくなるということであれば、利水撤退した場合はどうなるのか。また、撤退負担金や国庫補助等が利水撤退した場合どのような影響があるのか詳しく説明していただきたい。

(委員) 大阪府水道部経営・事業等評価委員会で決定している水源確保量231万 m^3 /日についても算定根拠を説明していただきたい。

(事務局) 本日、大阪府水道部経営・事業等評価委員会において、知事の公表を受けて審議されており、詳細については次回報告したい。

(委員) 利水規模縮小に伴い環境への影響は軽減されるということだが、安威川ダム自然環境保全対策検討委員会の審議内容との関係はどうなるのか？

(事務局) 安威川ダム自然環境保全対策検討委員会では、基本方針についてまとめているが、利水規模縮小による環境影響の比較の詳細は、次回委員会で資料を提示し説明したい。

・一級河川大和川水系石川ブロック河川整備計画について

(まとめ)

一級河川大和川水系石川ブロック河川整備計画について、環境、利水、治水それぞれの項目の課題と対応方針を説明した。今後、これらを基本に審議することとなった。